令和７年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
成果報告書
①（基礎データ・公演事業の実績値等）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団
施設名	大分県立総合文化センター （iichiko総合文化センター）
内定額	23,554　（千円）

（1）令和7年度　助成対象事業一覧

※実績報告書様式13－2(2)事業内容 から転記してください。
　複数の事業類型(公演・人材・普及)が助成対象となっている場合は、それぞれすべて転記してください。

事業番号	事　　業　　名	実施日程	実施会場
公-01	Co.山田うん『オバケッタ』	令和7年4月5日	iichiko音の泉ホール
公-02	東京バレエ団『眠れる森の美女』	令和7年6月7日	iichikoグランシアタ
公-03	アントネッロ『アルメイダ×フランシスコ・ザビエル』	令和7年9月6日	iichiko音の泉ホール
公-04	人気声優によるオリジナル音楽朗読劇	令和7年9月28日	iichikoグランシアタ
公-05	オーケストラ演奏会	令和7年11月16日 令和8年2月14日	iichikoグランシアタ
公-06	ジュニアオーケストラ演奏会	令和8年3月22日	iichikoグランシアタ
人-01	ジュニアオーケストラ育成事業	令和7年4月13日 ～令和8年3月21日	iichikoグランシアタ iichiko SpaceBe
人-02	若手アーティスト養成事業	令和8年 2月18日～23日	iichiko音の泉ホール
普-01	市町村連携アウトリーチ強化事業	令和7年5月31日 ～令和8年3月25日	県内各地
普-02	大分伝統芸能公演（神楽・楽打）	令和8年1月24日	iichikoグランシアタ iichikoアトリウムプラザ
普-03	障がい者鑑賞サポートコンサート	令和7年7月22日	iichiko音の泉ホール
普-04	乳幼児鑑賞サポートコンサート	6月20日、10月30日、 1月9日、3月3日	iichiko SpaceBe
普-05	未就学児鑑賞サポートコンサート	令和7年10月11日 令和8年1月17日	iichiko音の泉ホール
普-06	ミュージカルワークショップ	令和7年10月25日 ～11月3日	iichiko SpaceBe iichikoアトリウムプラザ
普-07	美術館ロビーコンサート	令和7年5月6日 ～12月27日	大分県立美術館

（2）〔基礎データ〕

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。
※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

【1. 事業本数】

項　　目			令和5年度	令和6年度	令和7年度
年間事業本数（※1）	主催事業		5	35	25
		公演事業	2	15	13
		（内、本助成対象事業本数）	0	0	6
		人材養成事業	2	3	3
		（内、本助成対象事業本数）	1	0	2
		普及啓発事業	1	17	9
		（内、本助成対象事業本数）	0	0	7
		共生社会事業			
		（内、本助成対象事業本数）			
		その他　内容：　記入してください	0	0	0

※1　事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

【2. 貸館日数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
貸館日数	ホールごとの貸館日数	0	340	336
	ホール名：iichikoグランシアタ　座席数：1966	0	174	159
	ホール名：iichiko音の泉ホール　座席数：710	0	166	177
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			

【3. 施設利用者数（事業利用者数）・開館日数・利用可能日数・利用日数・利用率】

項　目			令和5年度	令和6年度	令和7年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数		4,389	17,344	20,391
		公演事業	663	13,073	11,998
		人材養成事業	111	804	1,080
		普及啓発事業	3,615	3,467	7,313
		共生社会事業			
		その他　内容：	0	0	0
	貸館事業入場者・参加者数		0	140,665	181,001
	その他　内容：　記入してください		0	0	0
	計		4,389	158,009	201,392
開館日数			0	281	335
施設の利用可能日数　（＝365－（保守点検日数+休館日数））			0	248	285
施設の利用日数			0	217	261
施設の利用率（%）　（＝利用日数/利用可能日数）			0.0%	87.5%	91.6%

備考	

※2　実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。
劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者、事業関係者（出演者、指導者、スタッフ等）は除きます。
レジデントカンパニー・アーティストの稽古利用等の場合は「その他」に記入してください。

【4. 公演事業データ】

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。
※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	事業本数内訳						
					演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※3）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	2	3	663	0	2	0	0	0	0	0
	共催・提携公演（※2）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	貸館公演	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	2	3	663							
令和6年度	主催公演（※1）	15	17	13,073	0	13	0	1	1	0	0
	共催・提携公演（※2）	8	12	11,474	1	7	0	0	0	0	0
	貸館公演	237	245	133,462	6	161	9	6	8	0	47
	計	260	274	158,009							
令和7年度	主催公演（※1）	13	16	11,998	2	8	2	0	1	0	0
	共催・提携公演（※2）	11	12	10,019	2	8	1	0	0	0	0
	貸館公演	271	273	179,375	7	184	12	6	7	0	55
	計	295	301	201,392							

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

（3）各公演事業における実績値 及び 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標（値）・実績（値）

・公演事業について、助成対象事業ごとに目標（値）と実績（値）を記入してください。
・入場者数・入場者率（目標値）は**「交付申請書」**から転記してください。
・有料入場者数・有料入場者率（目標値）および評価指標・目標（値）は**「評価補助シート」**から転記してください。

※有料入場者率（%）の計算方法＝**有料入場者数÷公演の設定席数（実績値）合計×100**

事業番号	事業名		入場者数	入場者率	評価指標	目標（値）	実績（値）
公-01	Co.山田うん『オバケッタ』	目標値	400	70.7%	観客満足度	アンケートで「ほぼ満足」以上が90%以上	88.69%
		実績値	655	92.3%			
公-02	東京バレエ団 『眠れる森の美女』	目標値	1,700	95.2%	観客満足度	アンケートで「ほぼ満足」以上が90%以上	94.20%
		実績値	1,782	99.4%			
公-03	アントネッロ『アルメイダ× フランシスコ･ザビエル』	目標値	400	70.7%	観客満足度	アンケートで「ほぼ満足」以上が90%以上	96.39%
		実績値	381	67.3%			
公-04	人気声優による オリジナル音楽朗読劇	目標値	1,500	76.8%	観客満足度	アンケートで「ほぼ満足」以上が90%以上	94.50%
		実績値	1,891	96.8%	新規来場観客数	アンケート回答者のうち20%以上	34.30%
公-05	オーケストラ演奏会	目標値	3,000	76.8%	観客満足度	アンケートで「ほぼ満足」以上が90%以上	① 94.48% ② 91.06%
		実績値	2,926	87.1%	新規来場観客数	アンケート回答者のうち20%以上	① 18.98% ② 11.84%
公-06	ジュニアオーケストラ演奏会	目標値	1,200	73.9%	観客満足度	アンケートで「ほぼ満足」以上が90%以上	91.78%
		実績値	1,009	78.2%			

令和７年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

成果報告書

②（評価）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団
施設名	大分県立総合文化センター (iichiko 総合文化センター)
内定額	23,554　（千円）

（1）各公演事業の自己評価

「成果報告書①（基礎データ・公演事業の実績値等）」に記載の入場者率・評価指標・実績（値）等に言及しつつ、自己評価と自己評定（※1）を記入してください。
（※1）…S～D で記入してください。

※太枠内に記入してください

事業番号	事業名	自己評価
公-01	Co.山田うん 『オバケッタ』	本公演は現代ダンスという比較的鑑賞機会の少ないジャンルを取り上げ、創造性・企画性の高い事業として実施した。入場率は 92%と高水準であった。来場者アンケートでは満足度は 89%であり、目標の 90%をわずかに下回ったものの、作品の芸術性に対する評価は概ね高かった。特に 20 歳代以下の来場者が一定数見られ、新たな鑑賞層の開拓につながった。地域における現代舞踊の認知向上にも寄与した点を踏まえ、概ね良好な成果を得たと評価する。
公-02	東京バレエ団 『眠れる森の美女』	国内トップレベルのバレエ団による大規模公演として実施し、入場率は 99%と非常に高水準であった。満足度も 94%と高く、県外からの来場者も一定数見られるなど、広域的な集客効果を発揮した。クラシック・バレエの魅力を広く発信するとともに、当センターの拠点性を示す公演となった。質・集客ともに目標を上回る成果であり、非常に高い評価に値する。
公-03	アントネッロ 『アルメイダ×フランシスコ・ザビエル』	大分の歴史資源である「西洋音楽発祥の地」という文脈を活かした自主企画として実施した。入場率は 67%であり、目標をわずかに下回った。一方、来場者アンケートでは満足度 96%と非常に高く、芸術性と地域性を両立した事業となった。特に音楽史的背景を踏まえた構成は来場者の理解を深め、文化的意義の高い公演となり、独自性の高い企画として一定の成果を上げたと評価する。
公-04	人気声優による オリジナル音楽朗読劇	若年層および新規来館者の獲得を目的とした事業として実施し、入場率は 97%と高い集客を記録した。来場者のうち初来館者が 34%を占め、目標を大きく上回った。また、20 歳代以下の来場者も多く、新たな顧客層の開拓に大きく寄与した。満足度も高く、今後のリピーター創出が期待される。戦略的な観点から非常に有効な事業であった。
公-05	オーケストラ演奏会	親しみやすいプログラム構成により幅広い層の来場を促進し、入場率は 87%であった。満足度も 90%以上を維持し、特に 40 歳代以下の来場者割合が高く、比較的若い層の来場促進につながった。一方、新規来場者の割合は目標を下回り、クラシック音楽の裾野拡大に向けた取り組みを継続していく。安定した成果を上げた事業として評価する。
公-06	ジュニアオーケストラ演奏会	人材育成の成果発表の場として実施し、入場率は 78%と目標を達成した。出演者の成長が顕著に見られ、来場者アンケートでも満足度は 92%と高評価を得た。保護者層を中心に若年層の来場も多く、次世代育成と鑑賞機会の提供の両面で意義のある事業となった。集客・内容ともに良好な成果を上げたと評価する。

※行が足りない場合は適宜追加してください。

（２）自己評価

評価項目①：創造性・企画性

（※１）…S～D で記入してください。

評価の観点	・（企画力）地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・（制作力）優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・（発信力･影響力）圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・（レジデントカンパニー･アーティスト）当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。
・自由設定の観点（任意）（※２）	

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

	評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
公演事業	① 観客満足度	① 来場者アンケートで「ほぼ満足」以上が 90%以上	① 96.54% （有効回答 2,892 件中、2,704 件）
	② 新規来館者数	② 来場者アンケートで「初めて来館した」との回答が 15%以上（サブカルチャー公演のみ）（公-04 、公-05）	② 24.51% （有効回答 1,978 件中、485 件）
	③ ホームページへのアクセス数	③ 各事業それぞれ 3000 件以上	③ 1 事業あたり平均 12,609 件
	④ 友の会の会員数	④ 有料会員数が前年度より 5%増（218 名増）	④ 前年度から 10%増(460 人増) （R6 末 4,367 人→R7 末 4,827 人）
人材養成事業	① ホームページへのアクセス数	① 各事業それぞれ 2,000 件以上（開設しているもののみ）	① 1 事業あたり平均 9,154 件
	② 育成対象者の研修後の反応	② アンケートにより「期待以上の成果あり」の回答が 90%以上	② 100% （有効回答 6 名中 6 名）
	③ 指導者による評価	③ 事業終了後の反省会にて、高評価を得る（成果と今後の課題を把握する）	③ 1 年間丁寧に指導した結果が音で表現されていた。
普及啓発事業	① 観客満足度	① 来場者アンケートで「ほぼ満足」以上が 90%以上（コンサート形式の事業に限る）	① 70.01% （有効回答 507 件中、355 件）
	② ホームページへのアクセス数	② 各事業それぞれ 2,000 件以上（開設しているもののみ）	② 1 事業あたり平均 4,686 件
	③ 関係者による評価	③ アンケートで「また実施してもらいたい」との回答が 80%以上（アウトリーチ事業に限る）	③ 100% （有効回答 154 件中、154 件）
	④ 参加者の反応	④ アンケートにより、「また参加したい」との回答が 90%以上（ワークショップ事業に限る）	④ 48.48% （有効回答 33 件中、16 件）
共生社会事業			

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、事業類型ごとに太枠内に自己評価を記入してください。

公演事業	
自己評価	本年度は、国内外で評価の高い芸術団体による公演と、自主企画による独自性の高い事業をバランスよく実施した。特にバレエや古楽音楽劇、現代ダンスなど、多様なジャンルを取り上げることで、地域のニーズと芸術性の両立を図った。来場者アンケートでは満足度 90%以上を概ね達成した。また、人気声優による朗読劇など新たな切り口の事業により新規顧客の獲得に成功し、発信力･影響力の強化につながった。一方、オーケストラ演奏会における新規来場者の割合は一部公演で目標を下回っており、引き続き取り組むべき課題として認識している。 以上を踏まえ、創造性･企画性の観点においては高い水準で事業を実施できたと評価する。

人材養成事業	
自己評価	ジュニアオーケストラや若手アーティスト養成事業を通じて、地域における実演芸術人材の育成に継続的に取り組んだ。専門的な指導体制のもと、参加者の技能向上が確認されるとともに、成果発表の機会を設けることで社会への発信機会を創出した。 また、県内の文化施設や教育機関との連携により、育成した人材が地域で活躍する循環の形成にも寄与している。創造活動の基盤となる人材育成の観点から、着実な成果を上げたと評価する。

普及啓発事業	
自己評価	アウトリーチ事業やワークショップ等を通じて、県内各地における芸術文化の普及に取り組んだ。特に今年度は市町ホールとの連携再構築を重点テーマとし、共同でのアウトリーチ実施等を通じて地域との関係強化を図った。関係者評価（指標③）は 100%と高い一方、ワークショップ参加者の「また参加したい」は 48.48%にとどまった。これはアンケートが 2 択形式でなかったことが主因と分析しており、次年度は設問設計を見直し適切な形式で計測する。継続的な実施を求める声も多く、事業の質は維持されていると評価する。これにより、単なる普及活動にとどまらず、地域文化基盤の再構築にも寄与する成果を上げたと評価する。

共生社会事業	
自己評価	

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目②：国際性（任意）

評価の観点	・（国際プレゼンスの向上）海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・（国際交流）アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・（新たな創客への取組）在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。	
	・自由設定の観点（任意）（※２）	

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
① 外国人向けの広報誌に情報を掲載し、情報を発信する	① 8 公演以上掲載	① 11 公演掲載 （広報誌は年間 4 回発行）
② 英語版のジュニアオーケストラ団員募集チラシを作成し、その活動を知ってもらう	② 2,000 枚以上作成し、館内および関係機関に配布	② 2,000 枚作成し、関係各所に配布したが、問合せ申込みはなかった。チラシを配布は引き続き継続しつつ、活動周知の工夫を行いたい。

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	国際的評価の高い芸術団体による公演を実施し、県民に対して国際水準の実演芸術に触れる機会を提供した。また、外国人向け広報媒体への掲載や英語版広報物の作成・配布を通じて、在住外国人への情報発信にも取り組んだ。ただし、英語版チラシの配布については問合せ・申込みは得られず、在住外国人への訴求という点では十分な成果を上げるに至らなかった。 さらに、多文化共生の観点から、多様な背景を持つ来場者に対応した受入環境の整備にも努めた。在住外国人の来場促進については実績が得られておらず、広報手法や周知経路の見直しが次年度以降の課題であるが、国際水準の公演提供という点では一定の成果を上げたと評価する。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目③：地域文化拠点機能

評価の観点	・(文化拠点) 地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携) 地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供) 次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。	
	・ホール利用サービス（貸館事業）の向上（任意）（※2）	
	・自由設定の観点（任意）（※3）	

（※2）・（※3）…R7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※4）	目標（値）（※5）	実績（値）
① 登録ボランティアの活動延べ人数	① 延べ 600 人以上が活動	① 648 名が活動（研修含む）
② 連携する市町村公共施設の数	② 5 施設以上と連携する	② 9 施設と連携
③ 友の会の会員数	③ 有料会員数が前年度より 5%増（218 名増）	③ 前年度から 10%増(460 人増) (R6 末 4,367 人→R7 末 4,827 人)
④ 新たなコミュニティの創出	④ 参加者アンケートで「新しい仲間ができた」との回答が 90%以上（ワークショップ事業に限る）	④ 42.42% （有効回答 33 件中、14 件）
⑤ 貸館利用者満足度	⑤ 利用者アンケートで「満足」以上が 85%以上	⑤ 89.4% （有効回答 113 のうち 101 件）

（※4）・（※5）…R7 年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	本年度は、コロナ禍以降希薄化していた県内市町の公立文化施設との連携再構築を重点テーマとし、アウトリーチや共同事業を通じて継続的な連携体制への転換を図った。また、市町ホールのマンパワー不足等の課題に対し人的・企画的支援を行うとともに、ジュニアオーケストラやワークショップ等を通じた地域コミュニティの形成、貸館利用者の高い満足度維持など、拠点施設としての機能を多面的に発揮した。なお、「新しい仲間ができた」の実績値は 42.42%にとどまり目標を下回ったが、アンケートが 2 択形式でなかったことが主因と分析しており、次年度は設問設計を改める。以上より、地域文化拠点としての役割を質・量ともに大きく前進させた年度であったと評価する。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目④：多様性とアクセシビリティ

評価の観点	・（プログラムの多様さ）プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・（参画者の多様さ）アーティストやスタッフとして参画する人々の属性（性別、年代、居住地、他）が多様である。 ・（アクセシビリティ）障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。
・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R 7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
① 若年層の利用者数 （U25 チケットの販売数）	① 各公演平均 10%以上 （コンサート形式の事業に限る）	① 20.4% （助成対象の 11 公演で算出）
② 子育て世代に向けた公演数 （普-04，普-05）	② 8 公演以上開催	② 12 公演開催 （全て助成対象公演）
③ 託児サービスの利用者数	③ 年間 10 組	③ 20 組 21 名が利用 （助成の有無に問わず、 年間 13 公演で実施）
④ アウトリーチ事業の実施数 （普-01）	④ 年間 30 公演以上	④ 年間で 39 公演実施
⑤ アクセシビリティ研修の実施	⑤ 登録ボランティアの 70%以上が参加	⑤ 56.7% （登録 53 名中 30 名が参加）

（※3）・（※4）…R 7 年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	U25 チケットや親子向け公演の実施により若年層の来場を促進するとともに、アウトリーチ事業を通じて地理的制約のある地域にも芸術文化を届けるなど、幅広い層が参加しやすい環境づくりを推進した。また、鑑賞支援やアクセシビリティ向上に関する研修により受入体制の整備も進めたが、登録ボランティアの参加率は 56.7%にとどまり、目標の 70%以上を達成できなかった。開催日程や周知方法に課題があったと考えられるため、次年度は実施時期・方法を見直し参加率の向上を図る。多様な人々と芸術文化をつなぐ取組として一定の成果を上げつつ、受入体制のさらなる強化を今後の課題として取り組んでいく。

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目⑤：自由設定（任意）

評価の観点	①　創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性　の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。（※２）
	・ ・ ・

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	

（2）自己評価

その他：エピソードやグッドプラクティス事例について

助成対象事業に関連して、心に響くような印象的な出来事や、他館の参考になるような好事例があれば、具体的にご記入ください。

市町ホールとの連携によるアウトリーチ事業において、これまで関係が希薄であった地域との新たな協働関係が構築され、継続実施に向けた具体的な協議へと発展した事例があった。
また、人気声優による公演では新規来館者の割合が高く、その後他ジャンル公演への来場につながるなど、観客層拡大の好循環が生まれている。
これらは、拠点ホールとしての役割と新規顧客開拓の両面における有効な取組事例である。

ジュニアオーケストラ育成事業では、受験を終えた高校 3 年生が定期演奏会に裏方として参加し、「学校や学年を越えた友人ができ、誇りある思い出となった」との声が寄せられた。また、第 1 回から在籍しプロとなった卒団生 4 名をソリストに迎え、現役団員との世代を越えた相互の刺激と学びが生まれた。結成 17 年、卒団生をソリストとして迎えての開催は継続的支援の賜物であり、事業継続の重要性を改めて示す機会となった。

県出身の全国的アーティストと地元アーティストの協働事業では、「正解を教わるのではなく、共に探究するプロセスが主体性や責任感を強く意識する経験となった」との感想が寄せられた。単なるマスタークラスにとどまらず対等な立場で音楽を創り上げる 4 日間の協働は、深い学びと成果につながり、他館にも参考となる好事例といえる。

（２）自己評価

評価項目⑥：運営体制と持続可能性

（※１）・（※２）…Ｒ７年度評価補助シートから転記すること。
※太枠内に記入してください

○「実現性」の項目より〈(ア）～（エ)〉

評価の観点	**（ア）多様な財源の確保** 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	**（イ）広報・営業力** 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。
現状（※１）	県･国および民間企業から補助金等を得て、事業予算の確保に努めている。	広報専属の部署があり、事業部門と連携して広報展開している。
目標(値)（※２）	継続した確保を目指す	継続して実施する
実績(値)	事業実施に必要な助成金等を確保した。	広報等の担当部署と事業部門が連携した広報を実施し集客につなげた。また、友の会会員も増加した。
団体の自己評価	県や国の助成等、事業実施に必要な助成金等を確保することができた。	広報･会員制度を担当する部署と事業部門が密に連携し、効率的かつ効果的な広報を実施できた。

評価の観点	**（ウ）他館連携** 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	**（エ）設置者** 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。
現状（※1）	令和 6 年度まで、市町村ホールとの交流はあったが、連携した事業展開がなかった。	県とは日頃から意見交換や人材交流を行っており、事業等についても監査･評価を受けている。
目標(値)（※2）	県立ホールとして、県内 5 館以上と連携して事業運営を行う	継続して実施する
実績(値)	ジュニアオーケストラによる演奏会やアウトリーチ・レクチャー等 9 館と連携した活動を実施した。	県と継続して意思疎通を図り、必要な財源や人材等を確保することができた。
団体の自己評価	継続的に市町村ホールと情報共有・交流を行うとともに、9 館と連携した事業を行うなど、県立ホールとしての役割を担うことができた。	県と日々情報共有・意思疎通を図ることで、物価高騰や人件費増による経費の増加にも対応した財源等の確保ができた。

○「持続可能性に関するチェックシート」より〈(オ）～（セ)〉

評価の観点	**（オ）芸術監督** 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	**（カ）長期的経営** 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。
現状（※1）	ジュニアオーケストラにおいて、県立芸術文化短期大学教授が芸術監督を務めている。	中期経営戦略計画を作成し、実行するとともに、経営実務者を配置している。
目標(値)（※2）	大学との協力体制を維持する	県の指導のもと、長期的な経営を意識する
実績(値)	継続して大学との協力体制を維持した。	中期経営戦略計画に基づき、県と連携しながら運営を行った。
団体の自己評価	県立芸術文化短期大学と連携することで、継続的な人材配置ができている。	中期経営戦略計画を時代の変化に対応した見直しを行うなど、長期的な経営のための取組を行っている。

評価の観点	（キ）専門人材の確保 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	（ク）職制の整理 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。
現状（※1）	令和 6 年度より、事業課の正規職員を 3 名増員し、運営体制の強化を図っている。	経験に応じて役割分担を整理している。
目標(値)（※2）	育成を進める	継続して整理を進める
実績(値)	継続して若手職員の育成を行った。	継続して整理を進めた。
団体の自己評価	研修等を活用し若手職員の育成に取り組むとともに、公演等の事業を担当させることで実務能力の向上に取り組んだ。	職制に応じて役割を分担するとともに、若手職員に経験を積ませることで人材育成にも取り組んでいる。

評価の観点	（ケ）世代間バランス 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている（若年層の雇用に努めている）。	（コ）ジェンダーバランス 女性管理職比率が 30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。
現状（※1）	新規で正規職員を採用し、若年層の強化を図った。	女性管理職の登用は課題であるが、女性の副課長は 4 名いる。
目標(値)（※2）	若手の登用について、今後も意識する	女性管理職比率について、今後も意識する
実績(値)	若手職員に経験を積ませることで人材育成に取り組んだ。	美術館等では女性の課長への登用を実施している。
団体の自己評価	若手の事業担当者を採用したことで各世代にバランスよく配置できている。	美術館等では女性を課長に登用している。今後は音楽ホール施設を担当する女性の課長等への登用にも取り組む必要がある。

評価の観点	（サ）ワークライフ・バランス 仕事と育児･介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	（シ）コンプライアンス順守 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。
現状（※1）	育児休暇や時短勤務の制度を設けている	毎年、全職員を対象に情報セキュリティ研修を行っている
目標(値)（※2）	継続して実施する	継続して開催する
実績(値)	育児・介護のための休暇制度等の見直しを行い、両立して働きやすい環境づくりに取り組んだ。	引き続き情報セキュリティにかかる研修を開催した。
団体の自己評価	育児･介護のための休暇の取得促進など、両立して働きやすい環境づくりに継続的に取り組むことができている。	継続して情報セキュリティにかかる研修を開催している。

評価の観点	（ス）ハラスメント防止対策 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定･周知し、必要な研修を行っている。	（セ）適正な契約事務 アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。
現状（※1）	毎年、全職員を対象に人権研修を行っている	フリーランスのアーティストとは、文化庁のガイドラインに即した契約を交わしている
目標(値)（※2）	継続して開催する	継続して適正な契約を行う
実績(値)	引き続き全職員を対象に人権研修を開催した。	継続して適正な契約を行った。
団体の自己評価	継続して全職員を対象に人権研修を開催している。	継続してアーティスト等と適正な契約を行っている。

（3）総評

※太枠内に記入してください。

団体の自己評価
本年度は、県の中核･拠点ホールとしての役割を再確認し、コロナ禍以降希薄化していた県内市町ホールとの連携の再構築に重点的に取り組んだ。これにより、県域全体での文化事業推進体制の基盤強化を図るとともに、各地域における文化活動の持続性向上に寄与した。 また、質の高い公演の実施に加え、人材育成や普及啓発事業をバランスよく展開し、観客満足度の向上および新規来館者の獲得において一定の成果を上げた。 一方で、来場者の定着や国際性のさらなる強化といった課題も認識しており、今後の改善につなげていく。今後も地域の中核劇場として、広域的な文化振興の牽引役を担っていく。

備考
本年度は、県内市町ホールとの連携再構築において、従来の単発的な関係から継続的な協働関係へと発展させることができた。特にアウトリーチ事業を契機として、今後の共同事業や人的交流に関する具体的な協議が進んでおり、県域全体での文化事業推進体制の強化につながる動きが生まれている。こうした連携の深化は、各地域における文化活動の持続性向上に資するものであり、今後の展開が期待される。